

4年音楽 (MYP5 Arts:Music) 【音楽 I : 2単位】

Aims of subject 科目のねらい

The aim of MYP arts are to encourage and enable students to:

MYPの「芸術」のねらいは、生徒に以下のことを促して、修得させることです。

- enjoy lifelong engagement with the arts
生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ
- explore the arts across time, cultures and contents
さまざまな時代、文化、文脈にわたって芸術を探究する
- understand the relationship between art and its contexts
芸術とその文脈の関係性を理解する
- develop the skills necessary to create and to perform art
芸術の創作や実演に必要なスキルを培う
- express ideas creatively
アイデアを創造的に表現する
- reflect on their own development as young artists.
若い芸術家としての自分の成長を振り返る

Objectives and Assessment Criteria 目標および評価規準

At the end of year 5, students should be able to:

MYP3の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

MYP 評価観点	
Criterion A: Investigating 評価規準 A : 調査	i. investigate a movement or genre in their chosen arts discipline, related to the statement of inquiry. 探究テーマに関連して、選択した芸術分野のムーブメントやジャンルを調査する
	ii. critique an artwork or performance from the chosen movement or genre. 選択したムーブメントやジャンルの芸術作品またはパフォーマンスを批評する
Criterion B: Developing 評価規準 B : 発展	i. practically explore ideas to inform development of a final artwork or performance. 実践的にアイデアを探究し、芸術作品やパフォーマンスの完成に向けた取り組みに活かす
	ii. present a clear artistic intention for the final artwork or performance in line with the statement of inquiry. 最終的な芸術作品やパフォーマンスについて、芸術的意図を探究テーマに沿って明確に提示する
Criterion C: Creating/Performing 評価基準 C : 創作・実演	i. create or perform an artwork. 芸術作品を創作または実演する
Criterion D: Evaluating 評価規準 D : 評価	i. appraise their own artwork or performance. 自分の芸術作品やパフォーマンスを評価する
	ii. reflect on their development as an artist. 芸術家としての自分の成長を振り返る

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Arts guide」に基づいています。

Related concepts 関連概念 (音楽の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

Audience 受け手	Boundaries 境界	Composition 構成	Expression 表現
Genre ジャンル	Innovation 革新	Interpretation 解釈	Narrative 物語
Play 劇・戯曲	Presentation プレゼンテーション	Role 役	Structure 構成

※目標と評価規準は MYP 芸術3のものを使用する。

Yearly overview 年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. 美的感性 2. 個人的・文化的表現 [言語と言語システム] 3. 転移、情動、管理・調整、振り返り	A1 歌唱ア、イ、ウ B1 鑑賞ア、イ 教材 ・開成高校50周年記念歌 教育出版社「音楽 I tutti+」 ・0 sole mio ・Santa Lucia 教育出版社「音楽のおくりもの」2・3下 ・帰れソレントへ	・選択したカンツォーネによる歌唱発表【C】《観点1》 ・演奏解説書【B】《観点2》 ・プロセスジャーナル【D】《観点3》 様々な表現記号やイタリア語による歌詞などの情報と音楽を形づくっている要素の特徴を関わらせ、よりよい表現を考えて歌唱演奏を行う。併せて、外国語による表現について自分の思いや意図を記述した演奏解説書を作成し、発表までの練習過程について実践的探究を示すと同時に自身のパフォーマンスについて評価する。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-D
	2	1. 美的感性 2. 個人的・文化的表現 [分析と議論] 3. 協働、創造的思考、管理・調整、振り返り	A2 器楽ア、イ、ウ A3 創作ア、イ、ウ B1 鑑賞ア、イ 教材 教育出版社「音楽 I tutti+」 ・24の奇想曲から第24番（パガニーニ） ・パガニーニ大練習曲集（リスト） ・パガニーニの主題による狂詩曲（ラフマニノフ） ・既定の主題による変奏創作 ・ペツォールトのメヌエット	・主題の変奏 ・解説書「変奏曲の魅力」【A】【B】《観点2》 ・既定の主題による創作楽曲【C】《観点1》 ・プロセスジャーナル【D】《観点3》 変奏曲の鑑賞と分析により、変奏曲の特徴と魅力をグループで議論する。規定の主題を用いたリコーダーによる変奏曲を創作するとともに、リコーダーによるアーティキュレーションの奏法を用い、創作楽曲にどのような特徴と魅力があるのかを解説した作品解説書を作成する。楽曲の創作に至る過程について実践的探究を示すと同時に、自身の創作楽曲について評価する。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-A, B ③主体的に学習に取り組む態度-D
後期 (10月～3月)	3	1. アイデンティティ 2. 個人的・文化的表現 [専門分野の歴史] 3. 情動、批判的思考、管理・調整、振り返り	A2 器楽ア、イ、ウ B1 鑑賞ア、イ 教材 ・箏及び三味線の二重奏「さくらさくら」 ・「伝統楽器の音楽的な魅力とは」プレゼンテーション	・箏及び三味線の二重奏「さくらさくら」器楽発表【C】《観点1》 ・日本の伝統楽器の魅力とは（プレゼンテーション）【A】《観点2》【D】《観点3》 三味線の奏法を習得し、既習である箏との二重奏に取り組む。楽曲のイメージを捉え、アンサンブルでどのように表現するのか、音楽を形づくっている要素と日本の伝統音楽の特徴を関わらせながら表現する。また、他地域に存在する任意の伝統楽器（撥弦楽器）を選択し、それぞれの歴史的背景から日本の伝統楽器との相違点を述べるとともに、伝統楽器の音楽的な魅力についてプレゼンテーションする。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-D
	4	1. 変化 2. 空間的・時間的位置づけ[転換期] 3. 批判的思考、創造的思考、管理・調整、振り返り	A3 創作ア、イ、ウ B1 鑑賞ア、イ 教材 教育出版社「音楽 I tutti+」 ・西洋音楽史	・創作楽曲「次代の音楽」【B, C】《観点1》 ・作品解説書【A】《観点2》 ・プロセスジャーナル【D】《観点3》 これまでの西洋音楽の歴史を理解し、次の時代に主流となるであろう音楽を創作する。音楽を形づく要素の特徴を関わらせながら、自身がどのように考えてその楽曲を創作したのかを説明する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-B, C ③主体的に学習に取り組む態度-D